○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時５２分）

◎議案第４４号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君）　日程第15、議案第44号　平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君）　議案第44号は、平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についてでございます。

詳細は担当課長をして説明申します。

（企画観光課長　山本　公君　説明）

○議長（稲葉昭宏君）　以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

質疑はないですか。

○９番(一瀬寿一君)　皆さん、意見が出ないようだから、簡単に・・。

現状でこのままいくと、１億6000万円の累積で、今年度、26年度やると、また3200万円以上の赤字が出ると２億円になると、こういう全体的なことをまた私は申し上げるんですけれども、こういうことが続くと、私もちょっと休憩時間に言ったけれども、もう５年、６年前からこういう話がずっと出ているわけですよね。一向に修正が効かないというかなんというのか、先ほど大臣も悪いなと、各担当の課長ももっと目を見張っていなければというようなこともちょっと言いましたけれども、本当にこれでは、町民の皆さんに誠に申し訳ない。税金の無駄遣いしているというようなことになるわけですよ。

ですから、やっぱり黒字転換させなければ・・。黒字転換ができなければ、どうしたらいいか、要するに、この間、公社の方へと３年間の延長をして、まつざき荘をやりましたけれども、その辺もちょっと私は、非常に問題で、この前、前回の時に反対した。

この辺を具体的に、こうしたら、こうなるということを・・、町長にも課長にも申し上げたいんだけれども、その辺はいかがでしょうか。

○企画観光課長(山本　公君)　まつざき荘の赤字につきまして、これで５年続いてしまうとい

うようなことでございまして、なかなか厳しい状況というのは変わりがございません。

一瀬議員におきましても、監査委員の時あるいは宿泊施設の委員という形の中でいろいろご指導をいただいているわけですけれども、今回、平成26年度に指定管理を３年間ということで、決めさせていただきました。

業務の改善計画ということも提案させていただいて、町長が、任期の中でなんとかしたいという思いから３年ということの中で、皆さんにご承認をいただいたわけです。

そのいろいろな具体策を出した中で、取り組みをしているわけでございますけれども、なかなか厳しい状況は変わっておりません。ただ、これまで舩津係長も専属でやっていただいたり、振興公社の支配人並びに事務局長、副支配人とも協議を進めていく中で、今までとはやはり違った考えというか、もっとしっかりやっていかなければならないんだという意識を強く持ってきてくれているというのは感じているところでございます。だからといって、数字がすぐに変わってこないので、ご迷惑をかけているところですけれども、いずれにしましても、３年の中で、当然改善できることをやっていくというようなことが重要なことになりますので、また一瀬議員におきましては、黒字に転換する秘訣というのをお持ちだと伺っておりますので、ぜひともご指導いただきたいなと考えております。

○町長（齋藤文彦君）　理事長として、こういう数字が出たわけですから、もう本当に何も言えないわけですけれども、いろいろ改善の芽が出てきているなと私は思っているところです。

まつざき荘はやっぱり元気になるためには、宿泊客を増やなければいかんというわけで、松崎町は一生懸命やることはやると、そして、まつざき荘の方でもできるだけのことは全部やれと言っているわけで、この中で、やっぱりまつざき荘の中から、まつざき荘運営会議というのを立ち上げて、いろいろな、自分たちで問題点を積み上げて、こっちに出てくるようになりまして、白井さんにもアドバイザーとしていろいろ頼んでいて、それなりの芽が少しずつ出てきているのかなと思っています。

振興公社指定管理３年の１年目ということで、本当に今、ふんどしを締めてやっているわけですけれども、ぜひ皆さん方も厳しい目で、温かい目で見ていただきたいなと思っているところでございます。

○９番（一瀬寿一君）　要するに、マイナス、マイナスが出てくると、返済財源がなくなるわけですよ。その返済財源を、また再度借入をしなければならなくなる。その辺はどういうふうに思っているのか。また、例えば、一般財源から、町の方から貸してもらいたい、そんなふうにならないのか。その辺は、課長、わかっていますか。

○企画観光課長（山本　公君）　現金預金の関係が、去年7125万円あったものが3000万円くらいになってしまっていると、4000万円くらい減になっているというようなことを考えていきますと、やはりそこの部分が今年度中にかなり厳しい状況になるなという認識はしております。どういう形で対応するのがいいのかということについては、現在検討しているところでございます。

○９番（一瀬寿一君）　そういう状況が続くとですね。私も黙っていようかなと思ったけれど、やっぱりどうもそれは言わなきゃということで、言い始めているわけだけども、しかし、こんな状況で早く手を打たないとね。町長、また年度末になって、返済財源があれだから、要するに、借入をして財源を補てんしなければならない。こういうことになったら、大変なことになる。町民の皆さんに、そんなことがどんどん、どんどんあれになったら、これはどういうことだ、松崎町・・。

私は基本的に、一つ申し上げたいのは、よく町長も担当の方々も官が民をいじめるようなことじゃなくて、要するに、法事から何から一切合切みんな取れといったところで、それは、儲かるような営業はできないと思うんですよ。まず、基本的なことは、宿泊を取らなければ、宿泊者を多く取らなければ、絶対利益は出ないんですよ。いくら忙しい思いをしてやったって、それはまたマイナスになる。この辺はどう考えているか。

○企画観光課長（山本　公君）　当然、宿泊客を増やしていかなければならないということの認識はしております。そのために、改善計画なんかを立ててやってきているわけですけれども、その中で、セールスに行くことですとか、あるいは共済の関係なんかの各市町なんかにもお願いに行ったりとか、そんなこともやっております。

また、閑散期においては、富士山プランですとか、これまでもやってきておりますけれども、そういうプランを提供したりとかした中で、お客さんを呼び込んでいくということしかないかなと思います。積極的なセールス活動、宣伝活動及びそういったプランの提供等通じてお客さんを増やしていく努力をしているところでございます。

○９番（一瀬寿一君）　ほとんどまつざき荘の場合は、エージェントを使っていないと思うんですよ。見てみると、エージェントに対する手数料も少ないようですけれども、まず、どこのホテル・旅館もエージェント契約をして、エージェントから相当取り入れるというのがあるんだけれど、エージェントのあれはあまり出ていないということは、手数料を取られるからエージェントとやらないのか、どうなのか。若干それはエージェントの手数料もあるようですけれども、ほかのホテルとか旅館・民宿なんかとは全然違って少ないと思う。自力で取

っているというのか、自力でとるのも限度があるんだよね。だから、そこのところを考えないと・・、係長の方も大変いい案をいろいろ出していたようですけれども、私はあんな問題で黒字になるわけがないと。私ははっきり申し上げているんだけれど。それよりも基本的なことがまだなされていない。その辺はもう一度お願いします。

○企画観光課長（山本　公君）　エージェントの関係で、昔みたいにどこどこに何部屋提供してというような形ではやっていなかったという認識はいたしております。インターネットの関係で提供しているお部屋があったりとか、そういう部分はあるわけですけれども、なかなか部屋を確保していくという部分の弊害というのもあるのかなという気はしておりますけれども、いずれにいたしましても、お客さんに泊っていただかないことには売上も上がっていかないわけですので、積極的な営業活動も当然してまいりますし、一瀬議員の言われているようなところの業者との相談の中で、そういうことがお互いにできることであれば、それは検討させていただくということもございます。

先ほど申しましたけれども、共済の関係へのお願いですとか、自動車学校とのタイアップですとか、そういったものも続けてきているわけですので、それでもこういう結果でございますけれども、より一層頑張ってやっていくしかないのかなと考えております。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかにありませんか。

○５番（高柳孝博君）　３ページのところの損益計算書なんですが、これを単純に見てみると、利用収益というのは２億2127万何某、それから施設経営費が２億1946万何某というのがあります。これは、だいたい、例えば、100円使って、出てくる収益が101円くらのイメージなのかなと思いますけれどね。

一方で、減価償却費というのが4671万7743円あるということは、ここで営業利益として出そうとすると、最低4700万円くらい出さないと営業利益が上がらないということですので、そうすると、目標としては、4700万円以上をどうして上げるかということを施策を打たないと、本当の利益は出ない。そういう考えでいいのかな。一つは。

それと、考え方が、一つは、外部の要因と内部の要因、いつも出てくるのは外部の要因で、お客が少なかったというのはあるんですけれど、外部の要因の分析というのはよく質問のなかで言っているんですけれど、静岡県の場合、ちゃんと分析しているんですね。お客さんのニーズが変わってきているとか、今後向かうべきはここだというような外部要因的なものが・・。これは、ぜひ副町長にもお願いしたいんですけれど、町の集客の要因として、全体でつかまえて、これはまつざき荘だけの問題ではなくて、松崎の集客、交流人員をどうす

るかというところに一つは、外部的にはかかってきていると、そこもやっぱり対策を打たなければならない。

それから、内部的に、その100円使って101円の収益というのは、それがちょっと係数的にわからないんですけれど、100円で101円というのは、本当に内部の営業として、効率良く動いているのかどうか。

世の中でみて、実は、100円出したら150円くらい稼がなければならないということであると、何らかの要因が内部にあるというふうに思うわけです。だから、しっかりとなぜ赤字になっているかというところをもう一度やっぱり・・、対策する時には、現状把握というのをしっかりやるわけですね。現状把握をしっかり出して、その結果、要因がなんだということを・・、外部要因、内部要因はあるでしょうけど、自分でできないものもあるでしょうけど、そこをしっかり分析して、それに対して対策を打っていくということをやっていかないと、いろんな対策案を出すんだけれど、本当の要因にあたっていないと、その対策というのは外れるわけですね。だから、そこのところをもう一度見直して、要因はこれじゃないかと・・、外部要因と内部要因はあるでしょうけれども、外部の集積というのをしっかりやっていかないと、基本的には外部からきていなければ、集客、交流人口が増えてなければ、泊まる人も当然少ないと、これはまつざき荘だけではなくて、民宿でも旅館でも同じことがいえることだと思います。それはもう減っているであろうと、そこの要因とお客のニーズとかなんかをしっかり分析してみると、やらなきゃならない方向性というのがあると思うので、そこをしっかり一度分析されたらどうか、その考えはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本　公君）　まず、外部的な要因につきましては、これは、一般質問の中でもいろいろお話があったかと思うんですが、伊豆半島全体に来ているお客様が少ないというようなこともございます。そちらについては、伊豆半島・・、高柳議員もおっしゃいますけれども、グランドデザインあるいは県の観光振興計画みたいなものの中で対応していかざるを得ないのかなと思います。

町の単独としても、観光の振興のためにいろんな事業を行っていかなければならないかなということは考えております。

まつざき荘としましては、これまでの取り組んできた職員の問題も当然ありますし、それがために、舩津係長に入っていただいたりとか、あるいは26年度においては、白井さんをアドバイザーみたいな形で入っていただいたりという中で、改善を図って意識の問題を含めて改善をしてきているところでございます。

まつざき荘につきましては、割と高齢者の方、60代、70代の方が比較的多いということの中で、そこら辺のこと、あるいはリピーターの関係もよく質問がありますけれども、47パーセントくらいリピーターの方があるということの中で、そういった方を大事にするような対応をやっぱりしていかなければならないと思っております。

先ほど減価償却費等々、それらが重荷になっているというようなことですね。確かにそういうことになるかと思います。

いずれにいたしましても、そうはいってもマイナスに違いないわけですので、できることというんですかね。いろいろ分析も舩津係長と向こうとも会議なんかをやったなかで、いろいろ「こういうことをやっていこう、ああいうことをやっていこう」ということをやっているわけですので、それが効果を上げるように努力をしてまいりたいと思います。

○５番（高柳孝博君）　何回も申し上げているわけですが、4700万円以上稼がないと黒字にならないわけですね。そういう考えでいいんですよね。そういうことは、4700万円をどうして稼ぐかということをしっかりやらなければいけないわけです。だから、要因の・・、策を立てた時に、この策でいくら稼ぐ、この策でいくら稼ぐ、積み上げてみて4700万円なければ、この策では4700万円を超えないわけですよね。そこの分析をしっかりやってみて、この施策で何千万円、この施策で何千万円ということが出てこないと、これはまた次もたぶん赤字になりますよね。そこのところを・・、対策というのは、自分たちだけではできないものがたくさんあって難しいかもしれないけれど、そこを組み立てないと、ほんとの黒字にならないんじゃないかと思います。そこのところをやってもらえるのかどうか。

○企画観光課長（山本　公君）　指定管理の議論のときに、業務改善計画を出させていただいて、そのときに、この計画で、この事業をやって何人入れて、いくら稼いでというような資料もお出ししているかとは思うんですけれども、ただ、それがその通りできているかということがありますので、そのあたりは当然分析をさせていただいて、できていなければ、そこは改善を加えていく、新たな試みを加えていくということの中で、お客様、利用してくれる方を増やしてまいりたいと思います。

○５番（高柳孝博君）　指定管理者の方は委託費できますので、赤字になりませんね。そういうことは、実際やっている人は赤字にならないわけですよ。明日から給料がなくなるということはない。指定管理で中に入っている以上はなくなるということはないですよね。だけど一般的に営業をやっていくと、収益がなくなると、本来は収益でご飯を食べるということになると、収益がなければご飯が食べられないというのが一般的だと思います。だから、そこ

のところをもっと明確にしてやらないと、どうも経営の責任のところと運営の責任のところがよくはっきりしないので、これは運営委員会であったり、そういうところでしっかりやっているでしょうから、改めてここで言うこともないかと思いますけれど、そのあたりの分析もしっかりお願いしたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　売上と委託料だけでみていきますと、当然プラスになっておりますけれども、だからそれでいいという話ではなくて、先ほど来、お話も出ておりますように、トータルでみてプラスにしなければならないということですので、その意識を振興公社としてももっていただく、そのために舩津係長とかに入っていただいたり、あるいは白井さんにも入っていただいたりということでやっていますので、委託料と売上だけでいいんだというような認識ではないように職員を指導してまいりたいと思います。

○２番（福本栄一郎君）　町長、また言うとあれですけれども、高柳議員が言われているいろんな過去のデータとか分析ももちろん大事です。だけども、こういった宿泊というのは・・、町長も宿泊業をやっていますよね。昨日、今日じゃない、明日のことを考えなければだめなんです、お客さん相手は。明日のこと。これは基本的な常識の問題でいいとして、明日をどうするか。明日のお客をどう迎えるかということを積極的に考えた方がいいと思います。昨日、今日・・、もちろんそれはデータは必要ですよ。そんなことを論ずるよりも、明日のお客さんをどう引っ張ってくるか。ということは、副町長さんが来ましたので、これは県と市町の連携推進・・、静岡県、川勝知事以下、約6000名くらいがいると思ったんですが、知事部局は。それプラス家族の方、莫大な市場開発だと思いますよ。その辺で行政経営研究会を設立したというんですか、これは。これについて、投げかけて、市町村間の連絡はないけれども、松崎町独自のものですけれども、伊豆まつざき荘は。公共の宿はね。積極的に打って出て、どうでしょうかということと、それから地元の・・、私ももう２～３回言っておりますけれども、ローソンの・・、今度会長になったんですね、地元。ローソンは約20万人いるそうです。従業員。家族を入れると、もうすごい数です。この辺を積極的に打って出て・・、ただ待っているだけじゃなくて。海に行くと、定置網漁業みたいなもので、入ってくるお客、魚を待っているんじゃなくて、自分がどんどん出て。かつおの一本釣りじゃないですけれども、どんどん打って出て、積極的に明日のお客をどうするかということを考えないと・・。民間はすごいですよ。このまつざき荘は赤字をいったけれども、民間だったらどうするんですか。固定資産税から事業税、全部納めて、それで利益をださなければならない。従業員の給料も払わなければならない。こっちは非課税です。こんな甘っちょろいこと

じゃなくて、どんどん目の色を変えて出る決意はありますか。その辺をお伺いします。

○町長（齋藤文彦君）　福本君が言われていることは、本当にそのとおりだと思って、教員の共済組合の方にもいろいろ行っています。それで、一般質問で佐藤議員の方からもありましたけれども、いろいろ姉妹都市とか、防災協定を結んでいるところからいろいろ来てくださいとか、いろいろお願いしているところでございます。

だから、松崎町でやれることは本当にそれぞれがみんな一生懸命やると、そして、まつざき荘でやれることは一生懸命やるということで、一生懸命やっているところですけれども、やっぱりこういう数字だと私はなんとも言えないところがあるわけですけれども、いろんなことを一生懸命やっているところでございます。

○２番（福本栄一郎君）　それで、静岡県・・、副町長さんが静岡県で・・、無理はあまり言えないと思うんですけれども、やっぱり町長が理事長ですから、その辺を、静岡県職員だって、学校の先生が約３万人くらいいるでしょう。警察が確か6000人くらいいて、かなりの人数がいます。その辺を打って出てやる。あるいは松崎町から出た人たちを・・、コネをずっと伝っていけば、かなりいい宝にぶつかると思うんですよ。

明日のお客を考え、明日の経営を考えないといけないと思うんですよ。その辺をまた副町長さんがもし答えられるのならば、川勝知事さんにお願いするということがもしできるものならば、差し支えない範囲でお願いします。

○副町長（佐藤　光君）　今ちょうどお話がございましたようなことはすでに松崎町の方でも行っておりまして、特に教職員の共済組合とか、市町村の共済組合等には営業に回っております。そういった中で、若干有利な制度もございますので、そういったもののまつざき荘がいわゆる公共の宿だという意味での強みをご紹介しながら、「ぜひとも当町に」ということで営業活動を行っているところがございます

当然、私も実家の方には、そういった意味でＰＲはしておりますし、毎週末とは言いませんけれども、週末には県の静岡の方からも友人が訪ねてきてくれるようなこともございまし、年間を通じて、そういった・・、やっぱり私はいろんなところでお話をしておりますけれども、ファンを増やすということがまつざき荘の経営改善に繋がっていくんだろうなと考えておりますので、その前には、やはりその情報発信、広告が、特にクチコミ的なことが意外とじんわりじんわり広がっていくというのが、これまでの実績として出ているかと思いますので、そういったことを常に24時間夢にも見ながら検討するように、あるいは対応するように今後とも努力してまいりたいと思います。

○２番（福本栄一郎君）　ありがとうございました。要するに、この伊豆半島を静岡県で、いわゆる県道223号ですか、海の県道ですよね。それから清水から出て、フェリーボートで土肥港に来ています。あとは南へと来ないんですよね。その辺をまた、伊豆縦貫道の関係も今年の３月ですか、開通しました。だんだんインフラ整備ができてきます。なぜ、この伊豆半島の西海岸は見捨てられているか、来ないか。その辺はまた役場の方の担当課の方で分析するでしょうけれど、その辺のバックアップを副町長さんにお願いしたいなと思います。これは回答はいりません。お願いします。

○１番（藤井　要君）　いろいろ議論もなされているわけですけれども、先ほど一瀬議員も言いましたけれども、振興公社の関係、外部委託という時に反対したのが、私と一瀬議員であります。そんな中で、今またこういう決算がくることはだいたい予想できていたわけですよ。そういう中で、私はあまり言ってももう腹が立ってくる。この間、町長もおれがやるよということでやったわけですので、あまりガタガタ言いたくないということで、静かにしていますけれども、来年ですか、約800万円くらいの赤字、その次が、40～50万円の赤字、28年度は若干プラスというようなことで大いに期待しているわけですよ。

そして、どこで責任を最後は取ってくれるかということを、それを期待しているわけですけれども、そうかといって私も指をくわえて足を引っ張るつもりはありません。ですから、お風呂にも入りに行くし、朝食も食べに行きます。そういうこともやっております。ですから、役場の職員が夜残業ばっかりやっているというようなこともいろいろ出ております。金曜日は早く終わって、家族サービスのために役場の職員は、かわりばんこに夕食を食べに行く、そのくらいの心意気で、役場の職員はやったらどうですか。

昔、町長は言いました。役場の職員との垣根を低くすると言っていましたよね。そして、お互いに役場はただ見ているだけで、まつざき荘の人間はやっているだけで、「おらぁ、関係ねぇ」みたいな、そういうことのないようにやるということをやっているわけですので、そのくらいの・・、町長、家族サービスをやらせてくださいよ。役場の職員に。お母さんたちだって、子どもたちだって喜ぶと思いますよ。どうですか、その点は。

○町長（齋藤文彦君）　職員と町長の垣根は低いと思っているんですけれど、そのような、職員がそのようなまつざき荘の惨状を見て、みんなが行ってくれるようになってくれればいいなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案第44号　平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（稲葉昭宏君）　挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。